

令和3年 8月 4日

白老町議会
議長 松田 謙吾 様

白老町議会議員 長谷川 かおり 印

派 遣 成 果 報 告 書

日 時 (期 間)	自 令和 3年 7月12日 (月) 至 令和 3年 7月14日 (水)
目 的 地	全国町村国際文化研修所 (JIAM) 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号
調 査 事 項	令和3年度 市町村議会議員研修「3日間コース」 「社会保障・社会福祉」に参加
視 察 の 成 果 (具体的に)	別紙のとおり

※ 必要の都度、写真その他を付加する。

【研修目的】

現在「2025年問題」や「2040年問題」等かつて経験した事のない少子超高齢・人口減少社会に対応した社会保障・社会福祉の見直しが求められている。

その観点から現在の状況や制度を理解したうえで、地域医療、介護保険、児童虐待、ひきこもり、地域共生社会に関する講義や事例を通し今後、地域としてどのような仕組み作りを進めていくか等について考える。

一日目

「社会保障制度の動向」

駒沢大学法学部：原田啓一郎 教授

これまでの社会保障といえば年金、医療、介護が主だったが人生 100 年時代の到来を踏まえた働き方改革が行われていく。今後、更なる予防や介護の重要性が問われている事。

給付は高齢者中心で負担は現役世代中心の社会構造を見直し、全ての世代が公平に支えあう全世代型社会保障へ向かおうとしている。貧困問題から踏み込んだ社会保障の持続可能性という課題にどう立ち向かっていくのか改めて制度のあり方を考えさせられた。

『地域医療の現状と課題』

国際医療福祉大学大学院：島崎謙治 教授

今後、少子化が急激に進み 2040 年以降は年間 90 万人減少すると見込まれ、限界集落が町村単位で出現し、身寄りのない単身世帯が増加。社会構造が変わる中、家族代替機能を誰がどのように果たすのか。医療・介護の政策も大きく変化し「治す医療」だけでなく「治し、生活を支える医療」の重要性が増している。

白老町の地域特性を踏まえた保健・介護・福祉・就労・住宅・町づくりとの連携が地域包括ケアシステム構築の一助となることを再認識できた。

二日目

「介護保険と地域包括ケアにおける市町村の役割」

ニッセイ基礎研究所：三原 岳

介護給付負担を抑制するために予防を中心とする制度改正が行われており地域の実情に応じた体制づくりが推進されている。

しかし認知症や医療・介護連携、総合事業に関して市町村の責任と裁量が大きくなっており、地域の現状を分析したうえで横断的に施策を検討する必要性がある事を学んだ。

『児童虐待への対応』

日本大学危機管理学部 鈴木秀洋 教授

児童等に対する必要な支援を野田市・札幌市の虐待死事件の事例を通して制度や地域で見守る支援・連携のあり方、相談員等の能力向上が課題である。という講義内容であった。

コロナ禍で浮かび上がってきている家庭内のDVや児童虐待。声を上げる事が出来ないケースが潜在化していると言われていた中、子どもの命を守るために親ごと支える視点が必要であり、子ども食堂や地域食堂における居場所づくりは有効性があると講師も話されていた。地域のコミュニティとして位置付けられるように推進していきたい。

『ひきこもりに置ける地域支援の真価』

山口大学大学院医学系研究科

NPO 法人 ふらっとコミュニティ 山根 俊恵氏

日本で初めてひきこもりの家族と当事者のための居場所づくりを設け、家族のケアを行う事で当事者との関係が改善しアプローチに繋がることで段階的に社会参加できるようになった等、事例を踏まえての講義。

ひきこもりは病名ではなく、生きづらさの為に社会との距離を置き長期化する事で精神症状に悩まされたり生きる力が低下していくことであり、学校に行けない子は不登校として学校や家庭と繋がっているが、卒業後は見えない存在になってしまう。どのように手当をしていくのか大きな課題が残っている。

意見交換：

「社会福祉行政の縦割りをなくすためにはどうすればいいか」についてグループ討議行う。

- ・国は重層的支援体制整備事業を進めているが実現には程遠い。
- ・ワンストップ窓口の充実
- ・縦割りの無駄をなくす為に似たような施策を統合しスリム化する。
- ・定年退職者を再任用する事で経験豊かな知見を活かし住民サービスの向上に繋げる。又、新人教育を任せる事ができる。

コロナ禍の為に1時間の中で事前にアンケート調査されていた意見交換資料をもとに話し合いが進められた。

三日目

『地域共生社会の実現に向けて』

日本福祉大学 原田正樹 教授

三日間の講義の総論として包括ケアシステムや包括的支援体制の仕組みを通し地域共生社会とは何かを学んだ。

高齢者、障がい者、子ども・子育て、生活困窮、LGBT、外国人就労者、ケアラー、本人または世帯の課題が複合的にある「8050問題」「ダブルケア」等、地域の中で声をだせない、声なき声への支援が必要となっていく。今後5年、10年先のニーズの広がり福祉施策が少しずつ変わっていく事を念頭に置き白老町に何が必要か施策に反映していきたい。